

令和4年度美唄市総合計画審議会「戦略専門部会」 第1回会議概要

日 時 令和4年10月4日(火) 14:00～16:00

場 所 美唄市役所2階 市長会議室

出席者 委員：12名／14名中

市：市長、総務部長、市民部長、保健福祉部長、経済部長、都市整備部長、教育部長、
病院事務局長、消防長、美唄デザイン課長、美唄デザイン課長補佐、
デザイン係長、デザイン係

次 第 1 開会

2 議題

(1) 第2期美唄市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について【資料1, 2】

(2) 企業版ふるさと納税の実績について【資料3】

(3) 地方創生推進交付金活用事業の採択について【資料4】

3 その他

4 閉会

会議概要（質疑応答／意見）

(1) 第2期美唄市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

事務局より資料1により説明 ※資料2については、補足資料のため説明を省略

■基本目標1 産業を元気にして安定した雇用を創出する

【各委員質疑】

Q. 管内学生の美唄市内就職割合について、ハローワーク岩見沢管内とは、どこまでの範囲のことを指しているのか、また、割合を算出した数値について詳しく伺いたい。

A. ハローワーク岩見沢管内は、岩見沢市・美唄市・三笠市・月形町・浦臼町・南幌町の3市3町の構成となっている。また、割合については、管内学生の就職者数に対して美唄市内に就職した人数の割合で算出しており、14人(市内就職)/238人(就職者数)で、5.8%となっている。(経済部長)

Q. 新規創業の支援について、新規創業数を増やすためには、フォローアップが重要と考える。資金繰りや事業の進め方など、様々な相談ができる窓口づくりを美唄市と商工会議所が連携し進めてはいかがか。

A. 新規就業に関しては、美唄市、商工会議所、金融機関と連携し作成した、新規創業の計画を作っている。新規創業の計画の核となっているのは商工会議所が中心で行っている創業塾があり、その中でセミナーやスタートアップの補助金などの支援を行っているほか、セミナーの中で、専門家から、資金繰りも含めた説明する機会を設けている。

結果としては、新規創業数は少しずつ伸びている状況なので、創業後のフォローアップも含め商工会議所との連携し、起業者支援を進めて参りたい。(経済部長)

Q. 若者の市内就職の促進として、現在、3年生に対しての合同企業説明会を行っていると思うが、2年生に対しても同説明会の参加を勧めてはいかがか。

A. 若者の市内就職の促進については、企業の紹介冊子作製をはじめ、力を入れている現状で、美唄尚栄高校との連携により、合同企業説明会の開催場所を調整したことにより、参加者人数が増える結果となった。

ご指摘のあった2年生については、早期から市内企業を知ってもらうために、職場体験を実施している状況だが、合同説明会についても検討したい。

また、1年生に向けても、市内の企業を広く知ってもらえるように検討したい。(経済部長)

Q. 農業経営の持続・発展として、新規就農者数が具体的な施策となっているが、まち全体として、就農者数は増えているのか、減っているのか。

A. 農家戸数は年々減っているが、耕作放棄地は増えていない現状で、1農家当たりの耕作面積は増えている状況となっている。

平均すると年7名程度の新規就農者がいる状況だが、Uターンを含む家族からの事業継承が多く、それ以外の新規就農者の割合は少ない現状となっている。新規就農者を増やすためにも、事業継承や、市外からくる新規就農者に対して、それぞれ取り組んで参りたい。(経済部長)

Q. 農業産出額の事業内容に記載のあるスマート農業について、美唄市の現状を伺いたい。

A. 区画を広げたり、水はけの調整を行ったり、自動トラクターを運航できるような基盤整備を進めており、全農地のうちの半分の整備が終わっている。また全農地に光ファイバーを配置済みで、スマート農業を進めていけるよう整備に尽力している。ドローンや、水位の自動調整など作業の省力化を進めて、農業者の所得向上に努めていきたい。(経済部長)

■基本目標2 美唄の魅力を発信し新しいひとの流れをつくる

Q. 移住・定住の推進として、移住相談件数が挙げられているが、どのような相談内容が多いのか。

A. 令和3年度の相談実績だと、相談内容が多い順で、1. 空き家・空き物件・空地についての問い合わせ、2. 移住の支援制度についての問い合わせや資料請求、3. 移住体験ツアーなどの移住体験にかかる問い合わせとなっている。質問に対して適切な説明や、期待に応えられるような体制を引き続き強化して参りたい。(美唄デザイン課長)

Q. 市分譲地販売件数が増えている状況だが、分譲地の購入件数は、移住につながったと認識してよいのか。

A. 分譲購入については、助成制度を設けているが、在住者にも適用できる制度となっており、令和3年度の実績としては、市外からの購入件数：2件(5名) 在住者の購入件数：3件(11名)となっている。在住者の件数の方が多い結果となっているが、市外からの購入件数もあるため、移住につながったといえる。(美唄デザイン課長補佐)

Q. 家庭学習を毎日1時間以上行っている子どもの割合についてとあるが、どのように調査したのか。

A. 全国学力学習調査の中で、本内容に係るアンケートを取っており、その中の美唄市分を抽出した。(教育部長)

Q. 市内高等学校の入学倍率について、今美唄市に在住している学生が管内に残ってもらうためには、魅力のある学校づくりが必要だと考えるが、どのようにお考えか。

A. 市内の学生が減っている中、市内の学生数だけで、高校の倍率を1以上にするのは厳しい現状であるため、市内・市外ともに来てもらえるように魅力づくりを進めていきたいと考えている。(教育部長)

Q. 郷土に対する愛着や誇りを育む教育活動の充実について、学芸員の配置以外に何か具体的な施策や展望はあるのか、また美唄学の進捗状況はいかがか。

A. 美唄の子供たちに郷土資料館を通じて地元の良さを学んでもらえるように努めているところだが、さらに地域をどう良くしていくかといった視点を作っていくために大学や社会福祉協議会など外部団体との交流を設けるなど、今後の課題として検討していきたい。

また、美唄学については、学芸員を配置し広く周知を進めているところだが、その他の取り組みとして、美唄を学ぶ市民の有志メンバーとタイアップし、郷土史料の学びなおしを進めている。(教育部長)

Q. 令和3年度の外国人登録者は、58名という理解で間違いないか。

A. 住民登録をしている外国人が58名ということである。(美唄デザイン課長補佐)

Q. 外国人労働技能実習生受入れ企業数について、就業しやすい環境が整っていないと実現は難しいと考えるが、外国人雇用を増やすための取り組みとして、情報収集や検討などは行っているのか。

A. 美唄市内で、外国人雇用をしている企業は、主に建設業者となっている。

以前調査を行った際に、「関心がある・今後検討したい」とのニーズもあったため、外国人雇用について理解を深められるように、国の制度等を活用するなど、商工会議所と連携して進めていきたい。

また、企業に雇用のニーズがあるのであれば、外国人日本語学校のような受け入れ態勢も視野に入れて考えていきたい。

外国人雇用については、新型コロナウイルスの影響によって議論が止まっていたので、これからは、議論を加速させたいと考えている。(経済部長)

Q. 外国人材の受け入れ態勢について、ヘルパーの初任者研修において、外国人材が受講しに来ている現状で、福祉の現場では、外国人の受け入れ体制を強化すべきという話が出ている。福祉業界では、人材不足が深刻で、人材募集をしても問い合わせすらなく、派遣からも人材が派遣されない非常に厳しい状況で、人材不足の解消として、外国人材の雇用が望まれている。外国人や受け入れ側が相談できる窓口や、言語の壁のフォローアップが必要になるので、継続して情報共有や相談できる環境づくりが必要と考える。

福祉業界だけではなく、他の業界にもニーズがあると思われるため、役所としても担当課や担当者を配置してはいかがか。

A. 外国人材のニーズについて再認識することができた。経済部と保健福祉部との連携をしながら、外国人材の受け入れ態勢を整えていきたい。(経済部長)

A. 市内にインドネシア人の介護福祉士が2名ほどいることは把握している。
外国人材の雇用における情報収集は進めているところだが、先進事例を見てもなかなか定着に至っておらず、その理由としては、企業と外国人の中で、給与や、保証などでミスマッチが原因だと思われる。この問題点も踏まえ、経済部と保健福祉部で協議をしながら、進めてまいりたい。(保健福祉部長)

■基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

【各委員質疑】

Q. ファミリーサポート登録者数について

美唄市内でのファミリーサポート講習が受けられないため、札幌まで受講しなければいけない状況になっており、交通支援は設けられているが、移動距離の関係もあるので受講の妨げになっている。

市内で開催が難しいのであれば、岩見沢などの近隣で講習を受けられるような調整をしていただけないか。

A. 市内で開催できるよう進められるのが一番良いが、ニーズも調査しながらにはなるが、岩見沢など近隣で受講が可能なのか、確認や調整を進めて参りたい。(保健福祉部長)

Q. 子育てしやすいまちだと思える子育て世代の割合について、近隣の市町村の割合はどのようになっているのか。他のまちでの割合が低いのであれば、他のまちの施策を参考にするなど進めてはいかがか。

A. 近隣市町村の割合は把握していなかった。今後把握を進めるとともに施策についても参考にしていきたい。(保健福祉部長)

Q. びばいせわずき・せわやき隊登録者数について

現状、個人と団体の登録枠があり、個人は高齢化が進んでおり、団体だと社会福祉協議会のような組織で数を賄っている状況で、今後、登録者数が減っていく可能性が非常に高いと思われる。人数を確保していくため、企業に対して、社会貢献の取り組みであることを伝えるほか、子育て世代に対してのアプローチを行うなど、進めてはいかがか。

A. いただいたご意見をもとに協議して参りたい。(保健福祉部長)

Q. びばいせわずき・せわやき隊登録者数について

美唄市内に複数あった女性会が解散していくにつれて、本登録者数は減っている。

現状、人数が必要な取り組みを行うときは、近隣企業に手伝ってもらえているが、それでも不足している。

本隊に登録していない場合でも、人数が必要な取り組みを行う際は、一時的にでもお手伝いいただけるようにしていただきたい。

A. 無理のない範囲で、登録できるよう周知に努めて参りたい。(保健福祉部長)

■基本目標4 人口減少下においても、誰もが幸せに暮らせるまちをつくる

【各委員質疑】

Q. 市民アンケートの回答率ほどの程度か。

A. 令和4年度の回答率は、33.7%となっており、内訳は、404件/1,200件となっている。
回答者の年齢構成としては、65歳以上が43.1%、30代が13.9%、50代が12.9%となっており、それ以外は10%未満となっている。(総務部長)

(2) 企業版ふるさと納税の実績について

(事務局より資料3により説明)

【各委員質疑】意見なし

(3) 地方創生推進交付金活用事業の採択について

(事務局より資料4により説明)

【各委員質疑】意見なし

■その他

【各委員質疑】意見なし

●まとめ

【部会長】

本日委員の皆様から出た意見については、事務局で整理をお願いします。

以 上